

「A-Lab Artist Gate 2019 アーティストトーク」



出演 岩かけんた、鈴木真次子、高田 紗依、岩崎 雅、原田 亮地、藤井 妙子
司会 尼崎市文化振興局 校長
日時 2019（令和元）年6月1日（土）午後2時～4時
場所 あまらぶアートラボ（A-Lab room1）



トークイベント時の会場の様子

岩かけんた（以下：岩か）

岩さん、こんにちは！よろしくお願いいたします！
尼崎市長の方はどれくらい聞いてるんやろ？
今回「A-Lab Artist Gate 2019」ということで、毎年私がMCをさせていただいてアーティストさんに一体どんな作品なのか、学生時代どんな風に過ごしていたのかを皆さんに知っていただくためのイベントです。今日は暑い中、足を運んでいただきありがとうございます。今日はですね、現代美術、コンテンポラリーアートというのは一体何なのか不可解で分からないという方がいらっしゃると思うんですが、そういったことを分かりやすく説明していきたいなと思いますので、最後までお付き合ってくださいと思います。それではアーティストの方をご紹介したいと思います。では最初に、鈴木真次子さんよろしくお願いいたします。

鈴木真次子（以下：鈴木）

よろしくお願いいたします。
岩か 大学はどこですか？
鈴木 京都市立芸術大学を卒業しました。今は同じ大学の大学院に通っています。
岩か 作品はどちらに展示されていますか？
鈴木 廊下にかけている横に入った展覧会作品です。
岩か 横に入っているものが分解されたりしてる作品ですよね？これは一体どういうコンセプトというかなんか意味があるんですか？
鈴木 簡単に言うとなんか賞状が要の中でついばめてしまいたいなそういう作品をつくりたいなって思ってます。
岩か 普通、平面的なものはその中で形が完成しているものだけでも、それを実際に見ている人が割ればパズルのように分解してみたりとか、そういうものを可視化したということなんですね。
鈴木 ありがとうございます。
岩か 僕ら子どもの頃にそういう解体作業をしましたよね。例えばラジオを自分で解体したりとか、ものを割ってこうなるのかとかね。大きく言うとなんか世界とか、そういうものをコンセプトにしています。それを僕らなぜこうなっていったのかということを知りたいなと思います。今回何点くらいの作品を展示されていますか？
鈴木 作品自体は何点かでセットになっているものもあるんですけど、横の数は十個です。

岩か 今回展示されている作品は、卒業制作展で発表した作品ですか？
鈴木 卒業制作展で発表したものが大半なんですけど、二点だけ今年度つくった新作があります。
岩か やっぱり卒業制作展で出したものと、断たにつくった二点では、気持ちは違うんですか？
鈴木 続いているんですけど、ちょっと次の車に入ってきたかなという感じなんです。
岩か なるほど、大学院に進学して、次のステージに進んだような感覚ですね？ちなみにその二点というのはどの作品なんですか？
鈴木 シャンプーとか石鹸が横に割れてる作品と魚がまな板の上でぐちゃちゃになってる作品です。魚がいっぱいいる作品は、卒業制作の作品で、一匹しかいない方が新しい作品です。
岩か 鈴木さんは京都市立芸術大学、通称「京芸」と呼ばれていますが、大学では一体どんなことをしていて、どういう場所なのか。そしてどんな生活をしてたのかということをお聞きするのに画像を用意していただいておりますので、それをご覧いただきたいと思います。
鈴木 ちょっと間違えてまして、大学が写ってる写真にすればよかったんですけど…、これは富田義典がデザインした東京の三鷹市のキャラクターで、福来でアニメーションをつくってたりしたんですけど、コンペにノミネートされたので会場で演じてもらっていたことがあって、その会場でちょっと写されて撮影した写真です。
岩か その会場に来てたんですね、そのキャラクターが。
鈴木 そうです。
岩か アニメーション自体はどうだったんですか？
鈴木 結局受賞には至りませんでした。
岩か 一つの学生時代の思い出の出ですね。でもそれならアニメーションを映しません？キャラクターよりそのアニメーション演じた方が良かったんじゃない？
鈴木 次行きましょうか、これは…？





鈴木 これは私が大学一
生のときに京都市美術館の
別館で友達の彫刻作品に
入って遊んでいる写真です。
おか 友達の彫刻作品の中
で遊んでるんですか？
鈴木 「人が入れる形」と
いうテーマがあったらしくて、入って友達に撮ってもらいました。

おか ヘー。友達の作品を見たときに、勝ったとか負けたとか思ったりするんですか？

鈴木 私はあまり知らないかもしれないですね。

おか タイプ的にそうかなと思う。ニコニコ笑って記念撮影してますもんね。

鈴木 彫刻って自分のやっていることと違うので、特に。
おか 全然違いますもんね。先ほど見ていただいたような版画の平面作品ですからね。大学自体は家から選んでいたんですか？

鈴木 そうです。

おか 自宅から大体何分くらい？

鈴木 一時間半くらいですね。片道。

おか 結構歩きますね。ちなみに京都市立芸術大学を一言でいうとどんな大学ですか？

鈴木 えっと…「世間知らず」です。

おか 大学が？世間知らず？

鈴木 大学に通ってる人たちがいい意味でも悪い意味でも。

おか いわゆる「染れてない」「鈍鈍」ということですか？

鈴木 そうです。そういうことです。

おか 聞きまして、高瀬さんです。作品がちょうどこちらの部屋にあるんですね。これはどういった作品ですか？
高瀬 砂袋（以下：高瀬）

これはもともと風景をなぞっていった道なんですけど、それを解体して、壁に貼っています。

おか 映像が映っていますけど、全体的に一つの形になるものが出てくるんですけど、それがもとの風景の部分なんです。それをひとつひとつの部分をつらばらにしてこういったパーテーションの中に。これは描いているんですか？貼っているんですか？

高瀬 カッティングシートっていうシールを切って、壁に貼っています。

おか 卒業制作費でもこのような形の作品でしたが、最初からこのような作品をつくっていたんですか？

高瀬 私は版画を専攻してはいたんですけど、最初はスクリーンで写真をぼかしたイメージを刷っている作品をつくっていました。四回生くらいからこういうスタイルに移行しています。

おか 大学は京都精華大学ですね。今年卒業したんですけど、質をおとりになっていましたね。大学で展示したときとちょっと違いますよね。大学の場合はキューブ状の四角い形の部屋でしたけど、今回のこういった形にしたというのは？

高瀬 壁をつくるって聞いたので、普通にするのは面白くないなと思って、斜めの壁に入っていくと視界が狭まっていくのが面白いなと思ってこういう形になりました。

おか 破かにね、狭まっていくっていうのが、管轄が狭い取られていくというのか、奥のほうにどんどんいって、そういうイメージですね。こちらには映像が流れているんですけど、パーテーションの方を見ている、ある意味映像を見ているような感覚に陥るというのか、この三角の頂点になってくると、引き込まれていくような感覚になりました。そういった狙いがやっぱりあるんですか？

高瀬 つくってから、こんな感じになるんかなと、面白いなと思って。

おか 作家さんの思っているような感じなんですか？つくった後でこんななるんだなって、ありますか？

高瀬 ありますね。

おか やっぱりそうなんや。それは自分で現場に行って鑑入観客のときに自分の作品ってこう見えるんだとか、こういう見せ方ができるんだということに気づくんですか？

高瀬 そうですね。鑑入の時に色々見えてきます。

おか 今回は澤倉の作品というのか、できたって感じですか？

高瀬 そうですね。

おか さきほどチラッと出ましたが精華大学ということ卒業されて現在は？

高瀬 今はアルバイトなどをしながら食いつないでいます。

おか 前は修了されている？

高瀬 修了しています。

おか 大学行って毎年行くんですか？

高瀬 大学時も前期課程と後期課程があって、前期課程は二年なんですけど後期課程は三年あります。

おか 何年行かれたんですか？

高瀬 私は二年です。

おか それでは精華大学へずっと行っていたときの同時代の写真をご覧ください。何ですかこれは？



高瀬 これは精華大学の学園祭、「木野祭」っていうんですけど、去年の春に参画式動物園が来ていて、そのときの写真を持って来ました。鳩と鳥と山羊がいました。
おか みんな何こう割いてるじゃないですか、こんなのが来るんですか？

高瀬 去年、初めて来ましたね。

おか 高瀬さんは動物が好きですか？

高瀬 動物は好きですけど、そこまでめちゃくちゃ好きっていう訳ではないですね。

おか 生まれはどこですか？

高瀬 大阪の堺市です。

おか じゃあ周りに動物がたくさんいるとか、家で何か飼っていたとかそういう訳ではない？

高瀬 ではないです。

おか 山羊とか鳥とか色々いますけど、この中で何か飼っていた動物とかありますか？

高瀬 この中だと…猫かな。白い猫。カクタムリも今、飼いたくて。

おか カクタムリ…それは猫の餌にするって訳じゃないでしょ？

高瀬 じゃないです。

おか カクタムリってゆっくり動くじゃないですか？

高瀬 ゆっくり動くのがいいなと思って。

おか 例えカクタムリ飼ったらズーと居るタイプですか？

高瀬 ずっと居るとは思います。

おか どっちかっていうと、犬とかカクタムリとかそういうタイプが好きですか？

高瀬 猫とかも好きですね。

おか 分かるわ。猫とかカクタムリとか、一日中見てても飽きないでしょ。それでこういうところが最初にくるんですね。二枚目は何かあるんですか？

高瀬 二枚目も地味なんです。

おか これちゃんと正面を見てますね。さすがアーティストさんの写真やなと思います。これ自体が一つの作品



で成立してる感じがするんですけど、…よっぽど気に入ったんですね。友は？

高瀬 精華のバスなんですけど、今年の春くらいにバスの外装が変わって、なんか電光石火に似てるなって思ってた。



おか よくテレビなんかに出てきますよね。留中を定めてたりしますもんね。これにずっと乗っていたんですか？

高瀬 これは卒業する間くらいに変わったんで、乗れなかったんですけど。

おか これはどの駅まで行くんですか？

高瀬 国際会館ですね。

おか 駅が出町から出る新山電鉄の京都精華大学前で、そこからちょっと行ったところに国際会館のバスがあるんですね。では次は？



高瀬 この写真は工事現場で遊んでいる写真です。
おか 工事現場？下のやつはなんなんですか？

高瀬 分からないんですけど、乗り止めとか何か道路に置かれてあって遊んでました。

おか これ面白いですね。個性ありますね。これ写っているのは高瀬さんですか？

高瀬 私ですね。

おか ものすごく怪しいんですけど…

高瀬 めちゃくちゃ暗くて、目が暗すぎて…

おか ここは大学の近所なんですか？

高瀬 全館。友達の家の方なので、奈良ですね。

おか なんか高瀬さんって描かれているイメージがあるんですけど、電光石火とか電光石火とか。ある意味すごいものであるとかそういうものに興味を示すというのか、そういうのが強いんですか？好奇心というのか。

高瀬 その辺にあるものでも面白くないなと思ってとか、遊んでみたりとかは結構よくしてますね。

おか 兄弟はいますか？

高瀬 はい、下にいます。

おか お姉ちゃんなんだ。
高瀬 一応お姉ちゃんです。
おか 下の弟さんが妹さんに、お姉ちゃんにこんなや
ねって言われたことあります？
高瀬 お姉ちゃんって呼ばれないんですよ、私。
おか なんて呼ばれます？
高瀬 名前で呼ばれてます、珍次って。
おか 呼び捨て？
高瀬 尊敬されてないんです。
おか 今回の作品を見ていただいたら尊敬されると思
いますよ。ありがとうございます。それでは恐さんよろ
しくお願いたします。恐さんの作品はどちらにあります
か？
高瀬 龍番（以下：龍）
和室です。
おか 和室の作品というのは、写真があったりとか、立
体の作品があったりするんですけど、これはどういった
作品ですか？
高瀬 私の専攻は写真なんですけど、大学でいろいろ
他の授業を取っていました。ガラスとか絵画とか彫刻
とか。これはガラスの授業でつくった作品です。
おか ジャ、立体がガラスでできてるんですか？
高瀬 ガラスです。
おか この細々になっているのは写真？
高瀬 そうですね、中には写真を入れています。
おか シュレッターというかそういう状態にして？
高瀬 下はシュレッター、画の中のものは手で切って、画
の中にも写真が入ってます。
おか ここにも写真が入ってるんですか？こういう写真
を渡ったり、シュレッターにかけるといのは画の中
にある配置をイメージされているんですか？
高瀬 そうですね、今はデジタルの時代なんですけど、画
のところに入ってる写真は、今私たちがインターネットや
SNSにあげている写真、本当の生活の記録より、より良い
可憐とか、いいところに行って写真だけ撮って来る。こ
ういう人に見せるための写真が今は多い。画の中は私が
撮って、アップしてみんなが「いいね！」してくれるかな
と思ってる写真が画の中に見えるようにしてて、でも画
の中の写真は自分のために撮っていて、画にも見せない
もりの写真。一番下のシュレッターの写真はこの二年間
つくった作品のリサーチを全部シュレッターに入れたもの。

おか なるほど。そういうものを一旦消化したものです
ね。写真というものを。これはなかなか面白い作品ですね。
写真がこう映っている作品は、あれは家族の方ですか？
高瀬 お父さんとお母さんです。私は一人っ子なんです。
中国が一人っ子政策のときに生まれたんです。一人っ子
になると、いろいろプレッシャーとか掛かってきます。
中国は多分日本と似てます。ちっちゃい時から同じユニ
フォームを着て、毎日同じことをして同じ給食を食べて、
みんな一緒、同じになっています。
おか いわゆる右にならえという形になっているという
ことですか？
高瀬 そうですね。私はちっちゃい頃からみんなとちよ
と遊んでいました。
おか みんなと同じことをしたくなかった？
高瀬 はい。だから自分がどういふ人か知りたくて、アイデ
ンティティとかいろいろテーマにして作品を作ってます。
おか アイデンティティというのは日本的なものとか
で、よく海外なんかに行ったとき「これには日本のアイ
デンティティがない」なんて言われたりすることもあり
ますけど、中国の方が日本にいられて逆に思うこともた
くさんありますか？
高瀬 例えば日本の正月は絶対に火を使えない。でも中国
では必ずみんなで一緒に集まってご飯を作ります。
おか 日本って海外に旅行に行ったり最近が多いです
けど、中国の人はみんな集まるっていうことですね。
高瀬 そうですね、中国はみんな集まるのが好きです。
おか 恐さんはみんな集まるのは好きじゃないですか？
高瀬 今は好きです。離れたら好きになったんですけど。
おか 具体的に家族というものを見たときに、こうい
うこともありなんだと考えるということですね。
高瀬 昔は働きたいようになっていましたけど、今は離れた
ら逆に帰りたいですね。
おか 働きたいなものがあって、そういうものに縛ら
れることが、反感というか反骨精神みたいなものが
あったけど、今現在では違う見方もあるということす
ね。写真を撮っているのは？
高瀬 私はアメリカに七年住んでました。お母さんお父
さんは一回しか来たことがありません。大学から卒業し
たとき一度だけ来てくれました。そのとき一緒に旅行に
行った写真です。僕はお母さんとお父さんと一緒に旅行
すると毎日イライラします。昔お父さんとあまり仲が良

くなくて、一緒に旅行、しかもツアーに参加してて、毎
朝四時に起きてて。
おか 四時！？
高瀬 そうです、四時に起きてバスに一緒に乗って、到着
して二十分見て、一時間バスに乗って次の場所に行く
ていうツアーだったんですけど、本当に参加したくない
んですけど、お母さんお父さん初めて来てくれて英語も
喋れなくて、ツアーも参加するしかない、行くしかない。
おか 引率というか、お付き合いで行った訳ですね。
高瀬 もし写真撮らないと、ずっとお母さんとお父さんの
ことに集中したら私は毎日暗い思いけないから、あ
のときずっと写真撮ってて、写真撮ってるときはお母さん
もお父さんも話しかけてこない。作品つくってるところか
ら。手帳の一つとして写真を撮ってました。見せるつもり
あまりなかったんですけど、今、五年くらい経って振り返
たらあのときの気持ちとか、いろいろと私のアイデンティ
ティとか自分にも関わって、作品にしてみました。
おか 作品化して、自分の中である意味けじめをつける
といったこともあるのかもしれないね。家族というも
のを題材にするというのは、なかなか勇気のいることだ
と思います。恐さんの同意していただいた写真を見たい
と思います。これはアメリカですか？
高瀬 大学卒業した同じ専
攻のみんなと一緒に撮った
写真です。
おか これはアメリカのどこの州なんですか？
高瀬 ラチェスタ、ニューヨーク州なんですけど、カナダ
に近くて結構寒い場所です。
おか カナダの方なんか行ったら、フランス語圏があ
たりしますよね。世界各国から来てたりするんですか？
高瀬 大抵がアメリカ出身でした。私が入った時はアジアの
人は三人くらいしかいなかったです。今は結構増えました。
おか いいですねー。なんかこの大学の四角い帽子、な
んかよく周りの印象で投げたりするじゃないですか。卒
業のときに、そんなんするんですか？
高瀬 したかったんですけど、前の卒業生がそれでケガし
てて、やめてくださいって言われました。
おか 次の写真は？
高瀬 大学にある機材室。三
年生と四年生のとき、そ
こでパートタイムとして働いてました。

マネージャーはちゃんと履いてるスタッフさんですけ
ど、学生たちもそこで見えて、機材についていろいろ
ろ勉強できました。
おか 日本でいう石二鳥という感じで、機材のことも独
断できるし、その分、アルバイト料も安いってことですか？
高瀬 一番低い時給でした。
おか ちなみに時給っていくらくらいですか？
高瀬 八百円くらいかな。
おか 次の画像は？
高瀬 これはガラスの作品を
つくっているときに顔の型
を取っている。顔の型を取る
ために五分くらい顔を中
に入れないといけない。チュ
ーブは呼吸するためのチュ
ーブで、チューブが一瞬上
がって呼吸できなくて死ぬかと思いました。
おか 次の画像は？
高瀬 これは大学の卒業制作
展です。大学で制作した作
品もセルフポートレートで
す。二時目と四時目は私で
す。他の私が持っている中国と顔がりがあるもの。自
分と私の持っているものをオブジェクトにして距離を
とって、自分がどういふ人に見えるかっていう作品です。
おか この卒業制作もアメリカで？
高瀬 アメリカです。
おか アメリカに居るときのアートの影響って、やっ
ぱり日本に居るときと違いますか？
高瀬 そうですね、環境の影響もありますね。日本に来て
一番気づいたことは日本の人はあまり海外に出ない。日
本で満足してる。結構便利だから、なんでも手に入るか
ら。海外はネットで見て満足してる人が多いです。でも
中国の人はとりあえず海外に行きたい。
おか なるほど。中国人はワールドワイドになってき
て、いろんな国行ったりしてますけど、日本人を見て
いるとあまり行動に移さないんだと思う訳ですね。
僕も出た方がいいと思いますね。次は？
高瀬 これはデコルテの型を
取っているときの写真で、
石膏を使って型を取って



て、石膏が乾く前に支えないといけないから、三人で協力して。

おか 大変やなー。では次は？



お 今度はさっきの素材で描いている写真です。

おか 受付の下も美術でもんね。ちなみになんて書いてるんですか？

お 「寝たものは必ずチェックしてください。撮るときもしましたらあなたの責任です。」

おか アメリカって言う国は自己責任というのが強い国ですよね。そのかわり自分はこれをしっかり持ちなさいって分担がはっきりしてますよね。これなんか面白い。一つの何か記念撮影というか、見てて面白い写真ですね。次のこの写真は？



お これはソファです。私たちの学校は写真専攻で結構忙しいです。夜十時くらいに学校は閉まって、学校で働いている人は施設が二十四時間使える。より良い作品をつくるためにみんな

経理バイトしながら、学校で作業している。伝統的に一回くらいこのビルで泊まらないうちの学生じゃないって言うそういう言い伝えがありました。みんな曲がりかっこに入れていて、あそこに住んでる人もいます。おか たくさんの画像をありがとうございます。アメリカでやっぱり違いますね。それでは次に正蔵さん。よろしくお願ひいたします。正蔵さんの作品はどちらにありますか？

正蔵 正蔵（以下：正蔵）

倉庫とその向かいにあるガラス壁に入っている作品の二点です。

おか 上のところに糸があって、石をくっつけてそこから水滴が落ちてくるような作品ですね。倉庫のところが左側にあって、あれはちょっとした仕掛けがあるんですか？

正蔵 仕掛けというか基本的に上から水滴が落ちてくる。仕掛けがあるっていうのは多分壁灯の方なんですけど。上から水滴が落ちてくるんですけど、その落ちてきたときの水滴の揺れと同期して、真上にある壁灯が明滅したりする。

おか チカチカするということですね？

正蔵 そうです。見てるときに視覚に入っていない時の壁灯がチカチカするので真っ白い壁が光ったりするような効果があります。

おか さらに奥に行くともそれがまた変わった形の壁があって、そこにまた映像が映ってるんですね。あれはどういう映像なんですか？

正蔵 石が下の石に投影してるんですよ。その投影してる時に石自体がすごい回ってるんですけど、その回る動きを一点止めていて、その一点で止められている動きが動きそうで動かないような状況。ぼぼじっと見ていないと静止画になるんですけど、だまって見ると若干回りそうになったりするんです。

おか そうなんですよ。映像として動いたんで、パッと見たときに、面白いのがちょうど壁の奥の中にもさっき言ったものがあるんですよ。

正蔵 壁の中に入ってもらったら、さらにその中に水滴が落ちてくるような作品があって。水滴の音で壁の中をしてくれるかなっていう期待の音。

おか あそこを覗きだっているのは、やっぱり何か実験的なこととか、ちょっとやってみたかなと思った感じなんですか？

正蔵 倉庫だったのが大きいですね。ホワイトキューブではなくて、倉庫って言う場所性。あまり行かないじゃないですか。そこをある瞬間的に止まっているような忘れ去られているような。あまり干渉しない場所。あとは階段があったので、高低差で視界が変わったりとか、向こうに行くと帰ってくる時に振り返ったときに作品があることに気づく。

おか 気がついたんですよそれも。階段を登って降りたら左にあったんですよ。あれは登っているときにこっち側のその階段の奥の左側に目線がいくから、わからないんですよ右側が。階段を上って下りてきて分かるように、ちゃんと置ける場所があるんですよ。あれはびっくりした。

正蔵 光で盛金体が光るとか、あとは高さによって光が変わるとか、奥の映像を見てさらに向こうにあって、帰ってきたときにまたあるという。ある壁の置場所が切り替わったりとか、リレーされていくような状況を意図的に作り出したいと思って。それが場所としてすごく面白い場所だと感じてここがいいなと。

おか 出てからまたちょっと廊下のところにも作品がある

んですよ。今までご自身が制作されてきた中で、ホワイトキューブのバターの作品が多かったんですか。

正蔵 ホワイトキューブのような場所でも展示したことはないと思う。いわゆるきちっとしたホワイトキューブでは、例えばなんか廊下のちょっとへこんでいる部分とか、どこかの隅とかそういう部分とかに意味があってそこをベースに展示したりとかして、空間をつくっていくようなことが多かったのかもしれないです。

おか いつもこの White Cube で倉庫の作品って楽しみにしているんですよ。

正蔵 ああそうなんですか。

おか さっき仰ったように階段があったりとか、見え方が変わるじゃないですか。大塚さんこちら側の左のまっすぐそこに展示をしまして、奥にあったりとかして。帰ってきながら、また左にあったりとか、廊下にあったりとか気付きや発見があるから、ある意味アートがわからない人でも楽しめるというか。

正蔵 本当に、ありがとうございます。

おか 自分自身で発見ができるというのがすごく僕は楽しかったです。

大学はどちらでしたっけ？

正蔵 学部は京都府立大学なんですけど、今は京都市立英大にいます。修士です。

おか それでは正蔵さんの持ってきていただいた画像を見ましょう。



正蔵 僕は先々学部は版画になるんですけど、そのときにリトグラフという石を使った版画をやっているときの工房の様子です。

おか これが工房なんですか？結構大きいですね。

正蔵 そうですね。比較的大きいと思います。

おか はい続いて。



正蔵 これは乾かしているときの写真です。

おか 右が作品ですか？

正蔵 そうですね。

おか はい続いて。

正蔵 これは工房の中で

レーパーティーをしているときの様子です。



おか これ下にあるカラフルなやつあるじゃないですか？

正蔵 たぶん僕らの後だと聞くんですけど、僕も呼ばれて行ったんでちょっとよく分からなくて。たぶん

僕らが描いた壁が下になってると聞きます。

おか これなんですか？

正蔵 ナンだと思います。

おか ナンを描いてそれにカレーをつけて食べるということですか。美味しかったですか？

正蔵 美味しかったです。

おか こんなパーティーとかはよくあるんですか？

正蔵 なんか卒業する前に同僚の子がカレーパーティーをやるので来させんかって言われて。

おか 急に強誘ってきた。次あるんですか。

正蔵 これコンクリートを選んでるんですけど。

おか コンクリート？

正蔵 今回の展覧会でも使ったんですけど、コンクリートあれ一層二十五センチくらいあって、全部で三百センチくらいあるんですよ。それを彫刻させようと思ってたんですけど、逆にコンクリートに引っ張られて、それを止めている様子です。

おか なんか奥の下にスケボーがあったらちょうど似合う感じやねんけど、ちょうど今ストップをかけて、ストップになってると言うか。

正蔵 ストップかけてるんですけど、かかってなくて。たぶん引きずられていっています。

おか 三百キロはすごいんですね。強いのは？



正蔵 これは壁灯を設置しているときの様子です。

おか 壁灯を設置？

あつ、風景のときに。

正蔵 そうです。

おか そんなこともやっぱりしないといけないねんな。まあでも、制作をしているところってやっぱり大

変なんや、三百キロのコンクリートを持って行ったりとかはなあかんねんから。さっきは全部用意してくれた訳でしょ。

カメラとか、あれは全部用意してくれるんですが、ああい
ういろんな素材とか、ああいコンクリートとかっていう
のは、

高橋 コンクリートはまあ買っていくのは手頃って
いただきましたけど、

おか あんなは買っていく行かないといけない？

高橋 そうですね。

おか 厚みで素材とかは大学側が全部やってくれるんでしょ？

高橋 素材は基本的に自分で買っていくって、

おか ちなみにあのコンクリートって高いんですか？あれ
でなんぼくらいするんですか。あのひとかたまり三百キロで、

高橋 三百キロですか。一收七〜八百円ぐらい。

おか そんな安いんですかコンクリートって。ありがと
うございました。さあ最後になりました、森井さんです。
よろしくお願いします。作品はこちらの？

森井 砂塵（以下：園井）

こちらの三点になります。

おか どういった作品でしょうか？

森井 私のこの三点の作品は、人々の室内風景、心象風
景というものをテーマとして描いていて、私が置かれる
テーマとして光と闇とか、表と裏、現実と虚構、こうや
って他者に向けてる自分と、一人でいる時の自分とかそう
いう相反する要素が互いに共存している場面というのが
私の中で魅力的だと感じていて、闇の中でも相反する要素
が常に互いを飲み込みあって闇内できちんとしている
と思っていて、作品形態はおぼろげに描いてるんですけど、
そうやってこういう断面が互いにくるぐると重み合っ
てるといった断片的な感じだと思ってそれで描いてい
う手法を使って描いています。

おか これは実際にある場所ですか？

森井 これはアメリカのディズニーランドですね。

おか アメリカのディズニーランド、これはメリーゴーランド？

森井 これはなんか、すごいおぼろげに描いてるんで、
金に塗らんと、下のやつが壊れるようになっていて、
くるくる回るやつなんですけど、乗っていないのであれ
なんですけど、

おか 綺麗ですね。これは分かりやすいですね。シャ
ンデリアですね。

森井 そうですね。今回こちらが卒業の作品で、こっ
ちの二点が今回の展覧に向けて少しコンセプトを歪めて描
いたものです。今回の作品は視覚が及ぼす世界の歪曲ッ

ていう……ちょっと難しいんですけど、テーマにしよう
と選んでいて、この二つ実家にあるものなんです。シャ
ンデリアと犬のぬいぐるみ。このシャンデリアだと、私
の家が三人家族なんですけども父母親。父は事務で家に
今居なくて、私も大学は京都なので下宿してて、母
親が一人だけのお家なんです。このシャンデリアがあっ
たときは、まだ家族が三人一緒に居たときなんですけ
ども、家族が居る時よりも、母親が一人だけの現実。
不在のときの方がこのシャンデリアはすごい輝いて見え
ていて多分それはそういう今家族が居ないっていうこ
との現実的な裏付けの中、シャンデリアの光が母親に見
えて、懐かしいみたい。

おか シャンデリアを置いた家族というものをね、心の
中にそういうものを閉じ込められているということだ
よね、この作品の中にね。これは？

森井 これは犬のぬいぐるみですね。

おか ぬいぐるみ？これは小さいときからずっと持っ
てるやつですか？

森井 そうですね。私の子供部屋に母親が趣味で置い
たもので、どちらも共通して言えるのが命を持たない物
質。こうやって暖かいじゃないですか、犬のぬいぐる
みぬいぐるみなんですけど、シャンデリアもこういう
犬もそういうなんか命を持たないものが、こうやって愛
らしいシャンデリアの美しいっていう華々しさ、でその
華々しさに遠慮とか現実の喪失への憂鬱合わせになった
時の視覚、目で捉えるものの歪曲みたいな。この後だけ
を見てるとなんかシャンデリアがなくて綺麗だなーみ
たいな、この家は金持ちなんだなーってなるんですけど
も全然そうじゃなくて、なんかそういう物質が与える光
のロマンチズムのある意味空虚さ。その空虚さがある
からこそ美しい。最初と言ったようにこういった相反
する二つの要素を持つものに置かれるんです。

おか 一つの言葉、一つの空虚さに引っ張られていっ
て何かに気がつくみたいなのって言うのは、すごく白
いんですね。そういった意味でいうとそこに家族が居
ていたり、幼い頃小さい頃からこういったものがある
という。ある意味セルフポートレート的な作品になるの
かもしれないですね。

森井 かもしれないですね。でも、こうやって私が抱
えている家族とか、今までの夢とか、将来のこととか、結
核そういう現実とした不安感をずっと表現して、そ

れて皆さんにも伝えることじゃないかと思って、私の
作品でありながら現代の人々に共通する闇内にある側
面とかそういう要素なのではないかと思っています。

おか それでは画像の方をお願いいたします。これは
制作してる途中？



森井 そうですね。写真は
この一枚だけです。

おか あれはスカートで
すか？

森井 作業着でスカートをはいてます。

おか スカートの作業着って珍しいんですか？

森井 つなぎとか多いですね。ジャージとかも。

おか スカートって……なんで？って聞くのもアレです
けど、動きやすいから？

森井 そうですね。あとは、つなぎだと着替えがもた
たしちゃうじゃないですか？スカートだとどの状態でも
力があってかぶったら五秒くらいで着替えられるんで、

おか 右に花が映ってるみたいに見えるのはなぜですか？

森井 あれはマグカップにつっこんでる筆たちですね。

おか これはご自分の筆ですか？全部？

森井 そうですね。

おか これだけ使い分けるんですか？

森井 そうですね。筆の色が調えるのがちょっと怖いので
柄と筆の色ごとに分けたいなと思って、結構いっぱい
あるんですけど、めっちゃめちゃ置ける筆もあるので
全部使ってる訳ではないんですけど、

おか これ今写っている部分っていうのはご本人が描い
ている場所ですけど、周りも同じように制作している感
じなんですか？

森井 そうですね。私が学部の時とは違うコースだったん
ですけど、全然みんながみんな描いていうわけではな
くて、アニメーションつくってる人も居ましたし、私
は油絵だからイーゼルに立てて描いてるって感じでした。

おか 大学はどちらでしたっけ？

森井 京都造形芸術大学です。

おか 京都造形芸術大学は一言で言うとどんな大学ですか？

森井 一言で言うと、社会を常に刺激させる大学だっ
て思います。

おか 卒業なんかでも学外から来てね、お祭りというか、
そういった感じの大学ですもんね。

森井 結構華やかですね。

高橋 ありがとうございます。そしてもう一人いら
っしゃるんですけど、欠席されてる方がいらっしゃるん
ですよ。それは校長さんから説明をしていただきたいと
思います。

高橋 早石明利さんという方の作品で room3 の部屋に
展示しています。木を彫って巨大なエビの頭部をつく
っている作品です。深海をイメージするため、部屋を真
暗にして青いライトで照らしています。

おか 京都精華大学の彫刻を卒業されたんですね。何
かご本人のコメントみたいなのはありませんか？

高橋 なぜエビを作ったんですか？と聞いたんですが、
加足無物とか骨格みたいなカクカクして曲がる部分が好
きだと仰っていました。この骨は金属、鉄でタツノオト
シゴを制作していたり、今回なんで木で卒業の作品をつ
くることになったのかという、彫り続けてできるまで
の時間というのが、自分の制作スタイルに合っているか
ら木で彫っていいこう考えたということを知っていま
した。金属は割とスピード的には早くでまっちゃうので、も
っとゆっくり組みながら、時間を掛けて作り上げたかった
というのが卒業でこの素材を選んだ理由だそうです。

おか 卒業で見たときのイメージとここで見たときの印
象は全然違いますね。

高橋 そうですね。卒業のときは、他の学生と一緒にア
トリエの空間で展示したんですけど、本人はもっと狭く
したかったらしいです。他の作品もあるものでいうこ
とができなかったらしいんですけど、ここはひとつの部
屋で彼女の作品だけ展示することができるので、基本的
に照明以外は遮光をして真っ暗にして、照明が明るいの
で真っ暗にはならないんですけど、そういう作品の展
示方法にしています。作品自体は実は脚の部分で動くん
です。可動するのがこだわってつくったところでもあ
るらしくて、もちろん動いて動かせるということではな
くて、この位置で足を止めてあるけど、位置を変えよう
と思えば変えられるという作品になっている。可動部分は
金属が凝縮していて、そこが本館に開館のように動くよ
うになっている。

おか 影がなんとも見えませんね。

高橋 影に今回こだわって壁面も当初は高いカーテンの
ままという状態で展示を始めたんですけど、やはり影
をもう少し出したいと変わってきたので、白い壁を
新たに加えてつくりました。